

# 防災 市域越え訓練

## 三田、宝塚20人 救出手順など



倒壊家屋の模型で救助訓練をする参加者たち（三田市で）

三田、宝塚両市でそれぞれ活動する住民グループ「防災リーダーの会」が地震を想定した合同訓練をした。市域を越えて自助、共助の輪を広げようと、約20人が倒壊家屋から人を救助する手順などを確認した。

訓練には、三田側が所有する機材や、倒壊家屋の大型模型を活用。ボールやジャッキで家屋を持ち上げて隙間をつくり、下敷きになった人形を救い出した。家具の転倒防止対策で、タンスの模型を使って突っ張り棒などの効果を検証。揺れを感知すると電気を遮断する「感震ブレーカー」など防災用品の普及に向けたPR方法についても意見

を出し合った。さんだ防災リーダーの会副会長の市場通行さん(73)は「隣同士で助け合える関係をつくり、広域的に減災力を高めたい」。阪神大震災で自宅が全壊したという宝塚防災リーダーの会会長の片山辰雄さん(71)も「実践を交えた備えが大切だと実感できた。今後も交流を深められれば」と話した。

